

重要

米国で、先端部分が着脱できないタイプの十二指腸内視鏡の不適切な洗浄・消毒が原因と推測される、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（*Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae* : CRE）の感染報告がありました。残念なことに2名の方がお亡くなりになりました。（2015.03）

本邦で使用されている機種とは異なるものでしたが、FDA、厚生労働省、機器メーカー（オリンパス、ペンタックス）より感染対策に向けた勧告が提示されています。

これらの内容を確認していただき、改めて各施設で洗浄・消毒・保管の見直しや確認をしてください。洗浄消毒で特に注意すべき内視鏡は十二指腸内視鏡やコンベックス型超音波内視鏡です

◆各施設で必ず確認を行っていただきたいこと

1. 構造が複雑な内視鏡（十二視腸内視鏡やコンベックス型超音波内視鏡など）の洗浄方法について確認する。先端カバーを外し、鉗子台をブラッシング、鉗子起上ワイヤーのチャンネルへの洗浄チューブを用いての洗浄液の注入・送水、など各製品の添付文書や取扱説明書に記載されている方法を確実にしていること。

2. 通常の内視鏡・デバイスについても施設のマニュアルが洗浄消毒のガイドライン（消化器内視鏡の感染制御マルチソサエティ実践ガイド）に準じているか確認して下さい

◆技師会としての推奨

1. 軟性内視鏡の清浄度の評価指数として ATP などを測定してください

2. 年1回は無作為に抽出した内視鏡機器、処置具について表面や鉗子チャンネルなどから一般細菌の培養検査を行いましょう

参考資料

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-Iyakushokuhinkyoku/0000083843.pdf>

<https://www.pmda.go.jp/files/000203754.pdf>

http://www.jges.net/app/webroot/files/uploads/pdf/duodenoscope_20150421.pdf

http://www.jges.net/app/webroot/files/uploads/pdf/jyuuniversityo_20150430.pdf